

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100400		
法人名	有限会社 シルバーケア 夢		
事業所名	グループホーム サンサン丸		
所在地	沖縄県那覇市首里末吉町3丁目60番地1		
自己評価作成日	令和4年 8月24日	評価結果市町村受理日	令和4年 11月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.dayservice-yume.jp">www.dayservice-yume.jp</a>
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205
訪問調査日	令和4年 9月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○3食とおやつを手作りで提供している。味覚、視覚、嗅覚、聴覚等の五感を刺激し、食欲をそそるような食事の提供に努めている。また利用者様の状態に即した食事(ペースト食、刻み食、あちびー等)の提供を行っている。また便秘解消のためにヨーグルトやスムージー、食物繊維やオメガ脂肪酸を取り入れた食のありかたに力を入れている。  
 ○体重測定を行い栄養状態を把握し、エンシュアや高カロリーセリー等、主治医や家族と連携しながら身体向上の維持管理に努めている。 ○好きな時間に入浴することができる。  
 ○歯科医師と連携し口腔ケアの維持向上に努めている。口腔内の清潔を保持するとともに嚥下の状態食事の形状を検討することができる。  
 ○コロナ課で外出制限がある中、できるだけ近隣の公園や散歩に出かけている。春の遠足の実施した。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設10年が経過した当事業所は1階に法人内の通所介護事業所、2階がグループホームで3・4階には有料老人ホーム等が併設する複合施設となっており、日頃から職員間の協力体制や災害時の避難訓練等を一体的に取り組んでいる。運営推進会議は、コロナ禍当初からZOOMによるウェブ会議を年6回開催し、利用者や家族との交流もライン等の動画を活用して支援している。看護職員や訪問看護事業所と連携し、利用者の日々の健康管理に努める他、重度化や終末期に向けては、医療機関との支援体制を構築し、家族と協力しながら「枯れるような(穏やかな)自然な死」の看取りが行われている。食事は、利用者の希望や季節の食材を取り入れるとともに利用者の身体状況に合わせた食事形態に配慮し、3食とも事業所で調理され、温かい食事を利用者や職員と一緒に楽しめるよう支援している。コロナ禍で家族や地域との交流や外出等が制限される中、感染状況に配慮しながら日常的に事業所周辺や近隣公園で散歩を行う他、年間行事に遠足を位置付けて実施し、季節の花見や利用者の馴染みの場所等への外出を支援している。毎年入浴アンケートを実施し、利用者の要望に添った入浴支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり、深まったりし、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている(参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている(参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和4年 11月24日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間で、どのような介護をしたいか、どのような事業所にしたいか、理念をもとに話し合いをしている	理念は、令和元年度に全職員で利用者への思いや目指したい介護を言葉で表現し、併せて地域密着型サービスの意義を含めた方針となっている。理念と方針はフロアに掲示し、毎月全職員が参加するミーティングで読み合わせて共有している。理念の「絆」を重要視し、コロナ禍における家族との交流をガラス越しの面会やライン等の動画を活用し、利用者や家族の要望に応じて盆・正月の帰省も人数や時間を制限して支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウィルス拡大防止のため、交流は行っていない	地域には、加入できる自治会はないが、隣接の保育園園長や民生委員、元市職員が運営推進委員となり協力を得ている。以前は、保育園園児の立ち寄りや青年団によるエイサーの訪問を受け、事業所内にある地域交流室では、近隣住民による体操や囲碁サークル等に利用者も参加して交流していたが、コロナ禍により中断している。今年度の敬老会には感染対策に努め、ウクレレ奏者や琉舞のボランティアを受け入れ、地域の人との交流が再開されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウィルス拡大防止のため、交流は行っていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウィルス拡大防止のため、ZOOMを使用したWEB会議となっている。行政や知見者の意見を取り入れ、服薬支援や虐待防止等、様々なご意見をいただき、サービスに取り入れている。	運営推進会議は、年6回、奇数月ごとにZOOMを活用したウェブ会議を開催している。会議は、利用者や家族、行政や知見者、地域代表者で構成しているが、コロナ禍になってからはウェブ参加が厳しい地域代表者3人の欠席が続いている。会議では利用者や活動状況、事故や外部評価結果等、9項目について報告し、意見交換や助言等が得られている。議事録は、各委員に配布され、玄関先で公表している。外部評価結果の配布にも期待したい。	運営推進会議に地域代表者が参加できるような方法の検討、工夫が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等で交流を深め、困った時には相談に乗ってもらったり、情報提供をしていただいたりしている、	行政とは、運営推進会議や事故報告、申請手続き等で窓口を訪問した時に事業所の状況等、情報交換をしている。行政からは、各種研修についてメールやFAXで案内があり、随時参加している。行政とは日頃から電話やZOOM等で利用者の入居に関する相談や加算等の介護保険制度について問い合わせを行い、適切な助言を得る等、協力関係を築いている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和4年 11月24日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束や権利擁護の研修を行っている。虐待・身体拘束防止、事故再発防止対策委員会より身体拘束等の適正化のための指針がある。また運営推進会議で身体拘束適正化委員会の会議を行っている。	身体的拘束の適正化のための指針や身体拘束廃止マニュアルが整備され、定期的に「虐待・身体拘束について」の職員研修も実施されている。運営推進委員で構成する身体的拘束適正化委員会は、2か月毎に開催し、議事録を作成し、職員へ周知されている。転倒リスクの高い利用者には、居室をトイレの近くに変更する等工夫し、夜間帯のセンサー利用者には、観察記録を整備し、適時解除に向けて取り組んでいる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケース会議で虐待の定義やヒヤリハットで事例検討をしている。また、ミーティング等で話し合い、虐待の芽を摘む意識を高める様に努めている。	虐待防止のための指針や高齢者虐待防止マニュアルを整備し、定期的に虐待防止についての職員研修を実施し、虐待発見時の対応や虐待防止法の理解に努めている。事業所は、法人内の虐待防止委員会に3か月毎に参加しているが、運営推進会議を活用した委員会開催を検討している。職員ミーティングでは、嚙下力の低下した利用者の食事介助時に何度か「ゆっくり落ち着いて食べましょう」と声かけしているが、「食事を楽しむ利用者の行動制限になっているのでは？」等、話し合われている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会や勉強会の参加及び開催。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様、ご家族様が納得いくまで話し合いを行う。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様にアンケートを行い、ニーズに応えている。	利用者からの意見や要望は、日頃のケアの中で「出かけた場所や希望の食事やおやつ」等を聞き、ドライブや外食、食事やおやつ作りに反映している。毎年、入浴アンケートを実施し、利用者の希望に添った入浴支援が行われている。家族からは面会や病院受診時、電話やライン動画等で聞く他、玄関には意見箱も設置されている。これまで意見箱の活用は殆どなかったが、今年度は1件の投書があり、「転倒事故について」回答している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和4年 11月24日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を反映させる仕組みを作っており、働きやすい環境づくりに努めている。	職員の意見は、日頃の申し送りや毎月開催の職員ミーティング等で聞いている。職員からの「昼食時は利用者の食事介助や見守りが必要なため職員の休憩時間をずらして欲しい」との意見には、勤務時間を変更して調整されている。職員休憩所でリラックスできるようにソファの設置や利用者の重度化に伴う電動ベッドの導入等が提案され、対応している。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	産休や育児休暇の取得、超勤や処遇改善等を賃金に反映させ、職員が向上心を持って働けるように努めている。	就業規則が整備され、給与や各種手当、各種休暇等が規定されている。職員毎に有給休暇確認票があり、計画的に取得できるようにしている。健康診断は、日勤者は年1回、夜勤者は年2回実施している。ハラスメント防止については、ハラスメント防止規程を整備し、職員研修等で周知している。就業規則の服務規律にもハラスメントの禁止と懲戒等を記載しているが、妊娠・出産・育児・介護休業等のハラスメントが含まれておらず、追記に期待したい。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修や外部研修(WEBを含む)の参加		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沖縄県認知症グループホーム協会の理事に就任し、同業者との連携を深めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントをしっかりと行い、ニーズの掘り起こし等、時間をかけてご本人様の話に傾聴する。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和4年 11月24日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントをしっかり行い、ニーズの掘り起こし等、時間をかけてご本人様やご家族様の話に傾聴する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問診療や医療機関との連携、薬剤師や訪問歯科との連携の行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アセスメントやケアプランの作成、ケース会議等で検討している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に必要に応じてカンファレンスを行っている		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様と利用者様の関係性が途切れないような支援を目指している。	利用者と馴染みの人や場についての情報は、アセスメントや本人・家族から聞いて把握している。コロナ禍の前は、元同僚の訪問を受けたり、電話で交流する利用者や職員同行の下、模合への参加や地域の美容室に出かける利用者もいたが、中断されている。現在は、入居前から利用していた認知症デイケアの継続支援やグーグルマップの映像で出身地域を見たり、ドライブを行う等の支援をしている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和4年 11月24日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士がお互いに料理を作り、洗濯物をたたんで片付けあったり協力して生活してる。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時には、カンファレンスを行っている。現在では退所者はいない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	きめ細かいカンファレンスを行っている	利用者の思いや意向は、アセスメントや入浴・散歩等で1対1になった時に聞いている。利用者からの「料理が好き、サーターアンダギーを作りたい」の声を、「週2回、キッチンに立つ機会を作る」と介護計画に位置付けて支援している。発語等、把握が困難な場合は、声かけへの反応や家族からの情報を得て職員間で共有している。毎年、食事や入浴、遠足の場所等のアンケートを実施し、日々の支援に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	きめ細かいカンファレンスを行っている、利用者様の希望により、TVや鏡台、ご自分のタンスなどを持ち込んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定、体重表、排泄チェック表、支援経過表等を記録することで、日々の体調管理することができる		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和4年 11月24日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員はもとより、医師、看護師、訪問看護、訪問歯科や薬局等との連携を行っている。	担当者会議には、利用者、家族(電話の時もある)、計画作成担当者、居室担当職員を中心に勤務時の介護職員は全員、必要に応じて主治医も参加して話し合い、介護計画を作成している。長期目標を1年、短期目標を半年とし、3か月毎にモニタリングを実施している。毎月開催のケース会議では、利用者毎の状況確認を行い、短期目標の設定期間に沿ってアセスメントを実施し、計画を見直している。入退院等、利用者の状態変化に応じて随時、計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務ミーティングやケース会議等で検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍で以前よりは縮小しているが、外出や個別支援、日々の散歩等をおこなっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で、縮小しているが、行事の際に感染対策を行いながら、ボランティアさんと行事を楽しんでいる。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じて、病院受診に同行し、日々の経過を説明報告している。また体調不良や急変した場合には主治医に報告し連携を図っている。	利用者7名中3名は、馴染みのかかりつけ医を継続している。受診は家族対応を基本とし、必要時は職員が対応している。受診時は情報提供書や手紙で情報交換を行い、受診結果や薬の変更等は家族から直接聞き、職員は管理日誌で情報を共有している。利用者4名は訪問診療を受け、受診には担当職員と看護師が立ち会い、結果を家族に報告している。訪問看護師と連携し利用者の体調管理を行っている。訪問歯科診療、訪問マッサージを活用している利用者もいる。利用者は血液検査等の健康診査を受けている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和4年 11月24日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を契約し、日々の健康管理の把握の努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、病院側にWEB等でカンファレンスをお願いし、医療連携を図っている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明書の中に重度化した終末期に向けた看取りの指針を明記し、利用者様やご家族様に同意を得ている。医師や医療関係者を含めたカンファレンスを行い、終末期に向けた取り組みを行っている。	利用契約時に、「重度化対応・終末期ケア対応指針」を本人や家族に説明し、緊急時や終末期の対応について意思を確認している。看取り介護計画をたて、看護師と24時間連携し、開設当初からの利用者2名の「枯れるような(穏やかな)自然な死」の看取りを行っている。職員は家族のサポートを行い、職員間はグリーフケアを行っている。職員はターミナルケア研修や重度化した利用者の対応として「ストマ(人工肛門)勉強会」に参加している。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡先やご本人の状態、薬の内容をファイリングしており、緊急事態に備えている。また119番への通報訓練や緊急時のマニュアルの沿ってロールプレイを行い慌てることのないように備えている。	「異常事態・事故発生時の対応について」のマニュアルやフローチャート等を整備し、異常事態や事故発生時は、マニュアルに沿って対応している。「ヒヤリハット・事故報告」については、ケース会議で再発防止のための話し合いを行い、申し送りや管理日誌で情報を共有している。夜間時の救急救命法や応急手当などの学習会と訓練の実施、再発防止のための検討会議録の整備等に期待したい。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的実施している。	施設内に水や電気、10日分ほどの食料を備蓄している、年に数回防災訓練や避難訓練を行い非常時に備えている。	1階のデイサービスと合同で年2回、昼夜想定「自衛消防訓練、消防・通報訓練」を実施し、防災設備点検も定期的実施している。水タンクが設置され、食料はローリングストック法で利用者職員と10日分を備蓄している。停電時の非常用電源として屋上にソーラーパネルを設置している。「非常災害時の対応マニュアル(フローチャート)」や「感染症予防マニュアル」を整備している。オンラインで「自然災害発生時のBCP研修」に参加している。	



自己評価および外部評価結果

確定日:令和4年 11月24日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	業務ミーティングやケース会議等で検討し、職員間で話し合っている。おむつや下着を見えるところに置かない等、プライバシーに配慮した支援を行っている。利用者様には、わかりやすい丁寧な説明を心がけている。	職員は、利用者の誇りを傷つけないように「ちょっと待って」等の声かけに注意し合いながら対応している。居室に入る時には、ノックや声かけを行っている。申し送り時は、利用者が特定されないようイニシャルで話し、プライバシーに配慮している。職員は、接遇マナー研修を受講している。事業所入口に個人情報保護方針や利用目的を掲示している。入居契約書に利用者の権利が明示され、尊厳のある利用者支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴や外出を利用者様の意向に沿うような働き掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事に時間や入浴を基本的には決めているが、利用者様のその日の気分や体調のペースに合わせてサービスの提供している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	爪切り、整容等を定期的におこなっている、また訪問理容室との連携を図り2か月に1度支援している。また美容介護も行って、女性の方に顔の保湿パックも行っている。		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	五感で感じる食事の提供を心掛けており、台所で利用者様と一緒に食事づくりを楽しんだり、香りで食欲をそそるような支援、また目で楽しむことのできるような彩のある盛り付けを心がけている。	食事は3食とも職員が調理し提供している。食事アンケートを実施し、利用者の好みの物や季節の食材を使い、温かい食事を用意している。利用者は、もやしのひげ根取りや島らっきょうの皮むき、食器洗い・拭き等の役割を担っている。敬老会の食事は刺身を用意し、クリスマスや忘年会等では、希望者にノンアルコールビールが提供されている。職員は利用者と一緒に同じ食事を摂っている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和4年 11月24日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事介助、声掛けや数回に分けての提供する等の食事支援、また水分量や食事が取れない場合の支援として、ゼリーやエンシュア等の提供。その方にあわせた、普通職、刻み職、ミキサー食などを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの実施、訪問歯科との連携し、舌苔等の除去や歯間ブラシの使用方法を歯科衛生士さんから指導を受けている。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録を作成、記録している。声掛けや時間案内で排尿をコントロールしており、排便に関しても医師と連携しながら、薬の調整を行っている。	日中は、全利用者にトイレでの排泄を支援している。夜間は、転倒防止のためポータブルトイレを使用する利用者がいる。排泄介助時は、トイレのドアを閉め、外で待機しプライバシーに配慮している。便秘対策は、排泄チェック表を確認し、ヨーグルトや焼き芋を提供している。スタマチェック表を活用し、排便処理やガス抜き処置を行っている。重度化した利用者は、夜間のみ吸収量の高いオムツを使用し、睡眠の確保に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質、イモ類などバランスのとれた食事の提供やおやつ提供、またヨーグルトや乳製品を取り入れ、便秘にならるように工夫している。また散歩や軽い運動を行うことで、便秘の解消に役立っている。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には週3回だが、利用者様に合わせ、自由な入浴となっている。	入浴は、週3回を基本に、シャワー浴を支援している。今年、入浴アンケートを実施し、同性介助の希望や時間、浴槽の利用などについて利用者の希望を確認し支援している。リクライニングシャワーキャリーを利用し、入浴する利用者がいる。寝つきが悪い場合や足にむくみがある場合には足浴を行っている。愛用のシャンプーやトリートメントを使用する利用者もいる。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和4年 11月24日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様が安心して快適に休まれるように居室内の温度調整や足浴している、また眠れない時には入眠するまで寄り添うなど対応している。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬箱と服薬チェック表、マニュアルを作成し2人チェック体制を行っている。誤薬や飲み忘れがないよう服薬管理を行っている。	「投薬のマニュアル」を整備し、処方薬のセッティングや朝・昼・夕毎の配薬、セットされた薬袋と利用者名の確認等が行われている。服薬前のチェックは、2人体制で声と目視でチェックし、服薬介助は、1対1で行う等の手順を遵守し支援している。服薬後は、薬袋を保存し、誤薬等の事故が無いよう安全な服薬支援を継続している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員と一緒に食事作りや食器洗い、洗濯物をたたんだり室内の清掃など、体調の良いときに日々の生活の中に取り入れ、ご自分の役割として感じてくださっている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様と利用者様の関係性が途切れないような支援を目指している。	コロナ禍にあっても、安全な外出を支援している。利用者と職員と一緒に計画し、楽しみにしていた「春の遠足」には、入院中や体調の悪い3人の利用者以外の6人が参加している。桜の季節には、ドライブがてら花見をし、ファーストフード店でハンバーガーを食している。車イスの利用者は、事業所の周辺を散歩することで気分転換を図り、重度化した利用者は事業所入口で外気浴を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は行っていない。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和4年 11月24日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的には好きな時間で電話をしてもよいが、現在は手紙のやり取りや電話をできる利用者様がいない。ご家族へは、LINEを使って動画で利用者様の状態を観て楽しんでいただいている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様のお好きなものを居室に持ち込むことができる。また安心できる環境づくりに努めている。	共用空間は、行事に合わせ、正月飾りやひな人形、クリスマス等の飾りつけを行い、季節感が感じられる設えとなっている。ベランダから隣の保育園の子どもたちの姿や声を見聞きしている利用者もいる。トイレや浴室、脱衣室にはブザーを設置し、安全性に配慮している。洗剤等の危険物は利用者の目に入らない安全な場所に保管している。小型犬を1匹飼っており、利用者は話しかけ、撫でたりして触れ合っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間で一人でTVを観たり、利用者様同士でうたを歌ったりしている。ソファーもいくつか置いているので、一人になる空間もあり配慮している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の好きなものを居室に持ち込んでいる。家族の写真やラジオ、カセットテープなどがあり、リラックスできる環境づくりに努めている。	居室には、ベッドやエアコン、タンスが備え付けられている。利用者は家族写真や使い慣れた姿見やドレッサー、CDラジカセ、手作りのカレンダー、本等を持ち込み居心地よい居室づくりをしている。利用者と職員で作ったちぎり絵の表札は、居室が判別でき、利用者らしさが出るように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	徘徊がある方には、椅子に名前を貼り付け、自分の場所だとわかるようにしており、自分がここにもいいと感じてもらえるように工夫して喜んでもらっている。トイレの場所がわからない方はトイレの前にお部屋を移動し、目の前がトイレと理解できることで、放尿や失禁を防ぐことができる。		